立川市民オペラの会　サポーター通信　№ 0011

2011 年 10 月 発行

立川市民オペラ公演2012　歌劇「トゥーランドット」

２０１２年3月１０日（土）１１日（日）　立川市市民会館（アミューたちかわ）大ホール

立川管弦楽団より

私ども立川管弦楽団は立川市市民会館における年 2 回の定期演奏会を軸に活動を行っていますが、合唱団との共演も多く、もちろんこれまでの立川市民オペラでも管弦楽を担当させていただいています。さて昨今各地で盛んな市民オペラですが、「トゥーランドット」については、高い演奏技術がいるためか合唱団・管弦楽ともにアマチュアによる上演というのは少ないのではないでしょうか。私たちも大編成による圧倒的なサウンドと音色の多様性、ソリストと共に織りなす 薄いオーケストレーションによる繊細な表現等、苦労しています。**11 月 6 日（日）立川市市民会館大ホールにおける定期演奏会（14 時開演）**では「トゥーランドット」抜粋（演奏会形式）を採り上げます。3 月の本公演先に先駆けての演奏会となりますが、皆様のお越しをお待ちしております。

※この演奏会にサポーター会員の皆さまをご招待いたします。当日ホール入口受付にて会員証をご提示ください。紛失等で会員証がない場合は、事前に事務局までご連絡ください。

オペラ公演では管弦楽団は　オーケストラ・ピットと言われる舞台の下にある大きな箱の様な場所で演奏しています。客席からは殆ど姿を見る事が出来ませんので、定期演奏会に是非出掛けて、その雄姿と素晴らしい演奏をお楽しみ下さい。　本公演出演のソリストも登場、合唱団も歌いますよ ‼

合唱団より

3 月 10 日、11 日の公演を目指して、トゥーランドットの練習は順調に進んでいます。約１か月後の立川市合唱祭、立川管弦楽団定期演奏会に向けて、各自が暗譜に励んでいます。暗譜が今迄のどのオペラよりも大変で、各自懸命に覚える作業をしています。
古谷先生、副指揮者の稽古も始まりました。副指揮者とは初顔合わせ（9 月 22 日稽古）でしたが、熱いご指導に合唱団員も夢中で歌いました。9 月 29 日からはソリストも加わって稽古です。いよいよ仕上げの段階に入ったことを実感し、団員一同気持ちが高まってきました。

40 年住みなれた小金井を離れ、2 年前に国立に引っ越してきた私にとっての一番の喜びは、立川市民オペラ合唱団との出会いでした。

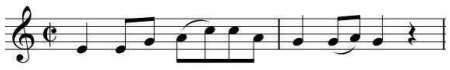
今、生活の中で夢中になって挑戦している事です。オペラ「トゥーランドット」でうたう事、イタリア語でうたう事、７～８０人の仲間たちとおなかの中から大声でうたう事…楽しく、難しく、苦しい、練習時間を重ねる幸せの中で生きています。来年の３月公演迄、頑張る事が出来るだろうか？少し不安ですがどうぞよろしくお願い致します。　　国立　　中谷　麗子

オペラ愛好会より

9 月 14 日に国立音楽大学大学院オペラ公演「フィガロの結婚」のレクチャー会を開催しました。講師はオペラ公演の演出をされる中村敬一先生。先生ならではの興味深いお話と映像とともに、公演で伯爵夫人とスザンナを演じる大学院生による実演もありました。中村先生がアリアの一節一節の言葉の意味や感情などを学生さんに指導されるなど、オペラを作り上げていく過程を垣間見られて、とても面白い体験をしました。
大学院オペラ「フィガロの結婚」は 10 月 15・16 日（午後２時）に国立音楽大学大ホールで開催されます。
チケットは好評につき完売したそうです。

知っトク　連載「知っていると面白くなる」

～トゥーランドット～



譜例「茉莉花」

トゥーランドット姫は題名役にも関わらず第一幕では声を出さず、姿を見せるだけ。冷酷な姫は民衆によるペルシャの王子の助命嘆願を無言で却下しますが、カラフは姫の美しさに魂を奪われてしまいます。その彼女のテーマが中国の民謡「茉莉花（ジャスミン）」です。近年ではアテネから北京へ続いたオリンピックでも聞き覚えのある方もいらっしゃるかと思います。子供たちの姫への思い、登場の際の堂々とした権威、彼女の去った後の残り香、謎解きに敗れた姫の反抗など、様々に姿を変えて表れます。ちなみにプッチーニはこのテーマを長年中国に領事として駐在していた友人のオルゴールから得たようです。

【お問い合わせ先】立川市民オペラの会事務局　　Tel：042(526)1312　　Fax：042(525)6581
（公益財団法人　立川市地域文化振興財団内）　　E-mail ： opera@tachikawa-chiikibunka.or.jp